

## CONTENTS

シビル NPO 連携プラットフォーム／since2014

# CNCP 通信

VOL.136／2025.8.5

## ■今月の土木■



### ▼お知らせ

- ・ホームページ「適疎な地域づくりのページ」を紹介  
：田中努

### ▼イベント案内

- ・アーバンリバースイミング「荒川遠泳大会 2025」  
：三井元子

### ▼フレンズコーナー

- ・自治体メタバースを活用した市民参加型イベント「3.11 防災を楽しく学ぼう in メタバース」開催  
：鈴木雅大

### ▼事務局通信

【上】講演時の様子  
【右】防災〇×クイズの様子



### ■日本工営とメタバース事業と今回のイベントについて

建設業界では、メタバースなどの仮想空間技術が黎明期を迎えております。日本工営はメタバースをマーケットイン志向の次世代技術と位置づけ、防災・交通・観光など多分野での社会実装を推進しています。今回ご紹介する取り組みは、豊田市が運営する「メタバースとよた」にて行った防災イベントです。本イベントでは、豊田市民を対象に大規模災害発生における被災リスクや、豊田市の防災の取り組みについて講演しました。市民参加型イベントを通じて、メタバースを活用した情報発信や市民参加促進の効果を検証しました。（鈴木雅大）



## ▼お知らせ

CNCP プロジェクト：適疎な地域づくり研究会  
ホームページ「適疎な地域づくりのページ」を紹介シビル NPO 連携プラットフォーム 常務理事/事務局長  
メトロ設計株式会社 取締役

田中 努



## ■「適疎な地域づくり」の活動

「適疎な地域づくりを考える」活動は、CNCP の理事と賛助会員のゼネコンの有志によって、2019 年 2 月に始まり、計 31 回の議論を経て、今日に至っています。

1) ステージⅠ（2019/2～2021/7）

研究会では、まず、社会的課題の解決を図る事業手法（特にソーシャルビジネス）と企業の共通価値の創造（CSV 事業）を学習すると共に、建設分野における社会的課題の解決を図る事業を広く調査・研究し、望ましい活動・事業とは何かを明らかにすることを目的として、キックオフしました。CSV とは、Creating Shared Value の略で、社会的課題を工夫のある事業で解決を図ると共に、合わせて企業価値の向上を図る事業を意味します。

計 10 回の研究会の結果、「インフラメンテ／災害対応への貢献／新規事業への貢献／中央と地方の格差問題／土木という物語」の 5 つの事業化領域に絞り込み、計 17 モデルをまとめました。

私たちの目指す CSV とは、「余力で奉仕する社会貢献」とは全く異なるもので、「社会貢献そのものを本業に据える」ことです。研究会で取り上げた全ての社会的課題は、今後の「建設業界そのもののあり方」を問うているもので、一企業のレベルでは到底解決できない高いハードルを越えることに挑戦するものであります。

【参考】CNCP 通信 Vol.88/2021.8：土木と市民社会をつなぐ事業研究会（CSV 研究会）ステージⅠ終了報告/山本卓朗

2) ステージⅡ（2021/9～2023/4）

ステージⅡでは、CSV 事業を強く意識して、建設業界の新たな事業、20～30 年先に「脱請負」の新事業を作るための「泥臭い議論」に力を入れました。自社の枠を超えて、ゼネコンとして一步前に進む形を議論しました。社会課題としてメンバーが取り上げた課題の中から、ゼネコンが関われる領域が広そうな「大都市と適疎な地域づくりの連携支援事業」をテーマに選び、建設会社が「適疎な地域づくり」に貢献できそうな案を、社会性と事業性を確認しながら、現実的な形にしていく取り組みをしました。

計 9 回の研究会を経て、議論した結果を文章化し、政策になり得る大きなビジョンを「提言（案）」にまとめました。

【参考】CNCP 通信 Vol.109/2023.5：「適疎(てきそ)な地域づくり」への提言(案)～過疎と過密の議論を超えて～/土木と市民社会をつなぐ事業研究会

3) ステージⅢ（2023/7～）

適疎な地域についての考え方と今後の調査の進め方について議論を行い、取り組み方を確認しました。ステージⅡの研究で分かった「人それぞれ、地域それぞれの適疎がある。過疎にも過密にも、その中に適疎がある」という認識を核に、CSV 事業を常に意識し、様々な方々と議論しながら、ゼネコンの関わり方、土木が参画することにより質的・量的に向上する方法を研究していきます。

そのために、全国各地で行われている「地域づくり」から、私たちが好事例だと思う「適疎な地域づくり」を集め、CNCP のホームページに掲載して、この問題に関心のある方々に情報提供をしつつ、様々な方々と意見交換し、望ましい土木の関わり方を模索していきたいと考えています。

## ■「適疎な地域づくり」のホームページ

CNCP のホームページには、「適疎な地域づくり」のサイトがあるのをご存じですか？ 今年の春に立ち上げ、時々改修して、少しずつ変わり続けています。

まず、CNCP のホームページの TOP ページから、下図の 3 カ所のいずれかをクリックして、「適疎な地域づくりのページ」に飛べます。



左は、CNCP のホームページのすべてのページの上端に示される「グローバルメニュー」と言います。

上の画面では、最上部の「適疎な地域づくり」のみが示されていますが、そこにカーソルを持って行くと、左のようにプルダウンメニューとして「適疎な地域づくりのページ」のサブメニューが現れるので、目当てのページがあれば、直接、そこに飛べます。

次ページの画面が、「適疎な地域づくりのページ」の TOP ページです。  
下記の URL か、右の QR コードを利用すれば、いきなりこの画面に入れます。

<https://npo-cnnp.org/page-7364>





「適疎な地域づくりのページ」は、「代表あいさつ／適疎とは？／提言／事例集／今後のネットワークづくりに向けて（作成中）／参考資料」の6つ（現在5つ稼働）で構成されています。

上の画面の大型ボタンか、各頁の上端のグローバルメニュー（前述）か、各頁の下端にある下図のボタンかで、見たいページにジャンプしてください。



## ■代表あいさつ

CNCPの山本代表理事の「適疎な地域づくり」に対する挨拶です。



## ■ 適疎とは？

CNCN プロジェクトの 1 つである「適疎な地域づくり研究会」の取り組みの考えを示しています。



## ■ 提言

冒頭で説明した「ステージⅡ」の最終まとめの「提言」を、ホームページ掲載を機に見直した「Ver.2」を掲載してあります。pdf 版のダウンロードもできます。



## ■ 事例集

「適疎な地域づくり研究会」のメンバーが適疎な地域づくりの好事例だと思う活動事例を 100 件ほど、ピックアップしました。その活動の地域・団体名と概要を数行で示し、活動が紹介されているオリジナルのサイトの URL を、まとめて掲載しました。次ページの「事例集」の画面の地図の右側の地方名をクリックすると、各地域の事例の紹介ページに飛びます。

現在、新たな 100 事例の追加と、活動内容や名称から事例を抽出できる「検索システム」の追加に取り組んでいます。



## ■ 参考資料

ここには、これまでの調査や検討の過程でまとめた資料を含め、下記の情報を掲載しています。

- ・「適疎な地域づくり」に関する年頭のあいさつ文＜3件＞
- ・「適疎な地域づくり」をめざして（CSV研究会の勉強資料）＜4件＞
- ・私たちが前述の「地域づくりの事例集」の抽出に利用した外部の事例集＜13件＞
- ・中央省庁が紹介する「地域づくり」の事例集＜6件＞
- ・民間団体が紹介する「地域づくり」の事例集＜5件＞
- ・学会誌・業界誌が紹介する「地域づくり」の事例＜18件＞



## ■ お問い合わせ窓口

各頁の下端に「お問い合わせ窓口」の案内を掲載してあります。皆様の多様なご意見やご提案をお待ちしております。

### ● お問い合わせ窓口

「適疎な地域づくり」は、皆様からの多様なご意見やご提案を歓迎しております。

「適疎」の概念や具体的な地域づくりの取り組みに関するご質問、貴団体での活動事例の共有、連携に関するご提案などがございましたら、下記までご連絡ください。

NPO法人 シビルNPO連携プラットフォーム

「適疎な地域づくり」担当 E-mail : yokotsuka-m@h09.itscom.net

## ▼イベント案内

アーバンリバースイミング「荒川遠泳大会 2025」  
参加者募集NPO 法人あらかわ学会 事務局長  
三井 元子

9月6日（土）アーバンリバースイミング「荒川遠泳大会2025」を実施します。ただいま参加者募集中！

小菅の綾瀬排水機場前から上流に向かって千住新橋下流の虹の広場まで1.5kmを平泳ぎで隊列を組んで泳ぎます。当日は大潮の満潮時。気持ちよく泳げるのではないかと期待しています。

荒川放水路通水100周年を機に始まった遠泳大会です。川中のwellbeingは、どんな要素があったら達成出来るのでしょうか？「より良い荒川」をめざして継続していきたいと思っています。

今年は千住宿400周年でもあります。ぜひ応援しに来てください。

本事業のSDGsの趣旨に賛同し、協賛又はご寄付いただける企業を募集しております。

## 荒川遠泳大会2025

1.5km遠泳  
泳者募集中！

9月6日（土）14:00泳ぎ出し

荒川下流は、明治43年の大洪水をきっかけに、隅田川への流入量を減らすために19年かけて造った放水路です。完成した昭和5年には川沿いの自治体に多くの水練場ができて、川中のウェルビーイングを楽しんでいました。100年たってやっと遠泳大会が復活しました。昨年の遠泳大会では、16歳～78歳の37名が1.5kmを泳ぎ切りました。



昭和5年の荒川遠泳大会(荒木良二氏撮影)

【定員 40名】※定員になり次第締切ります。

7月22日（火）募集開始、8月20日（水）締切

【参加費】10,000円 高校生又は相当年齢8,000円  
（傷害保険、監視艇・伴走艇等費用を含む）

【参加資格】

- ・高校生又は相当年齢以上
- ・自然水域での「遠泳」「オープンウォータースイム」等に参加した経験がある
- ・連続して2km以上を確実に泳ぐ事ができる泳力がある
- ・日常的に水泳や運動を行っており、健康である

【遊泳ルール】

複数人で隊列を組み、指示者に従って泳ぎます  
※詳しくはホームページの募集要項をご覧ください。裏面の申込書に書き込んで提出してください。

応援大歓迎！

泳ぐコース：左岸 綾瀬排水機場前  
～右岸 千住虹の広場まで<https://www.arakawa-gakkai.jp>

当日運営ボランティア募集中！お申し込みは

[info@arakawa-gakkai.jp](mailto:info@arakawa-gakkai.jp)

主催：NPO法人あらかわ学会

後援：国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所

・あらかわ学会：<https://arakawa-gakkai.jp>・国連憲章 Swimmablecity：<https://www.swimmablecities.org/>

## ▼フレンズコーナー

自治体メタバースを活用した市民参加型イベント  
「3.11 防災を楽しく学ぼう in メタバース」開催

日本工営株式会社  
事業戦略本部 事業開発部  
(共催：豊田市役所、クラスター株式会社)

鈴木 雅大



## 1. 日本工営のメタバース事業について

建設業界において3次元データの利活用は、BIM/CIMの原則適用の開始による自動設計の進展、国土交通省主導の「Project PLATEAU」によるデジタルツイン技術の適用拡大等を受けて、着実に進んでいます。そうした流れの中、かつてゲームの世界や一部の消費者向けマーケティング・サービスでの利用が主流であったメタバース（仮想空間）関連技術についても「黎明期」を迎え、試験的な導入が始まっています。

日本工営では、メタバースを「マーケットイン志向の次世代技術開発」と位置付け、顧客ニーズに応じて付加価値の高いコンテンツ制作や、関連アプリケーションの開発にも取り組んでいます。当社は、総合コンサルタント企業として防災・交通・観光など、さまざまな分野におけるソリューションの社会実装を推進しています。

## 2. 「3.11 防災を楽しく学ぼう in メタバース」について

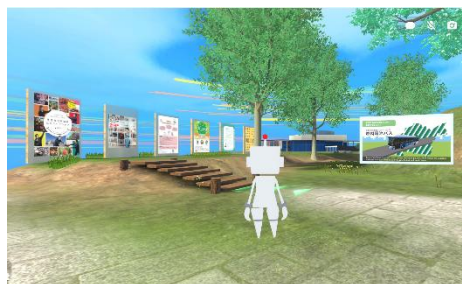
日本工営は、「豊田市つながる社会実証推進協議会」に加入し、豊田市が運営する「メタバースとよた」の有効的な活用方法について豊田市と議論を重ねてきました。

本取り組みでは、属性を問わず全市民が参加しやすい「防災」をテーマにイベントを開催し、市民の防災意識向上を図るほか、メタバースを活用することによる情報発信の有効性や、市民参加を促すメタバースの活用方法などについての効果検証を行いました。

## ●メタバースとよたについて

豊田市は、「豊田市メタバース将来ビジョン」に基づき、「メタバースとよた」を国内最大級のメタバースプラットフォーム「Cluster」上に構築し、2024年12月より本格運用を開始しました。「メタバースとよた」は全国で唯一の政策分野横断的なメタバースで、市民や企業、行政、団体がコミュニティ形成や情報交換、実証実験を目的としたイベント等を行うことができます。

今年度以降はメタバースとよたが様々な目的で活用され、地域全体でメタバースを活用していけるよう年間10を超えるイベントの実施を計画しています。「地域全体でチャレンジできるメタバース」を目指し、様々な活用方法を検討し、市民・企業・行政が一体となったメタバース事業を推進しています。



メタバースとよた（はじまりの広場）

## ●イベント概要

イベント名：3.11 防災を楽しく学ぼう in メタバース

日時：令和7年3月11日（火）午後6時～7時「東日本大震災追悼の日」

場所：メタバースとよた つながるアリーナ（イベントエリア）

講演内容：

- 地震発生時における被災リスクに関する講演（日本工営 防災マネジメント部 反町部長）

本講演では、大規模地震が発生した際の人的被害や身の回りで発生する被害、地震発生前にできる備え等について説明しました。また、メタバースを多く利用すると思われる若い世代の人たちも、過去の大規模地震で被害にあっていないことを紹介して、参加者の防災意識を高めました。

- 大雨の際の減災につながる事業 PR（豊田市 河川課 岡田様）

豊田市では、今後発生が想定される大規模災害に向けさまざまな取組を実施しています。本講演では、豊田市内で発生が懸念される洪水に対する取組として「3D 洪水ハザード情報」を紹介しました。

- 防災を楽しく学ぶクロスロードゲーム（豊田市 防災対策課 中島様、未来都市推進課 水谷様）

本講演では、豊田市防災対策課で行っている出前講座「防災ゲーム（CROSSROAD～クロスロード～）」をメタバース空間内で実施しました。防災に関する〇×クイズを実施するほか、チャットを利用し参加者との意見交換を行いました。



メタバースとよたはじまりの広場にて“豊田市の防災の取り組み”を紹介する動画を掲載

## 4. イベント開催結果について

今回のイベントでは、豊田市民のみならず Cluster アプリの「開催中のイベント欄」や「フレンド機能」により本イベントに参加された既存ユーザーも多数おり、結果的に 122 人がメタバースとよたに集まりました。メタバースを活用することにより、さまざまな属性の方にアプローチすることができ、「情報発信の場」として有効であることを確認しました。

また、参加者から回収したアンケートでは、「場所を問わず集まれるイベントだったので気楽に参加できた。」や「気軽に家で家事をしながら参加できた。」などの意見をいただき、「市民参加の促進」の観点でも一定の効果をえました。

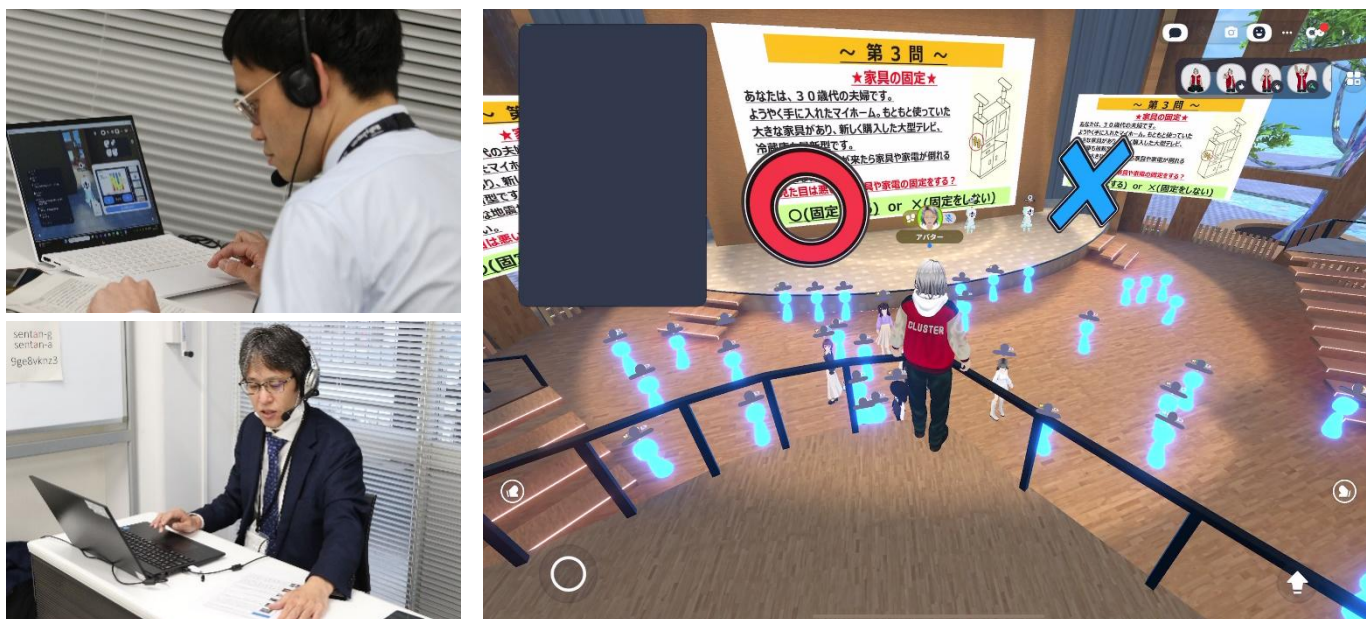
その他にも、従来のオンラインイベントでは一方通行になりがちなコミュニケーションが双方向で展開されたことや、「イベントに参加している実感が沸きやすい」ことで、参加者を長時間イベントに滞在させることにメタバースは効果を発揮することを確認しました。

※アンケート回答者の 95%以上が「イベントに参加している実感が沸きやすかった」と回答

※最大同時接続数：78 人、平均滞在時間：44.6 分



盛り上がりを見せた本イベント



イベント当日の様子（イベント運営（左）とイベント会場（右））

## 5. 本イベントの開催意義

### ●豊田市役所 未来都市推進課 中村大樹様

日本工営様とのイベントは、メタバースとよたで実施したイベントでは初めて、企業と連携したイベントとなりました。平日の18時から19時という時間帯でのイベントで、100名を超える方に参加いただき、リアル空間では実現が難しいメタバースならではのイベントとなりました。また事前申し込みの段階では40名程度の方から申し込みがあった程度なので、当日の集客ということでメタバースプラットフォーム「cluster」上でのイベント告知（当日アプリ上で告知）もかなり集客できるコンテンツだと感じております。防災というテーマについて、新たなターゲット層（子育て世代）へのリーチができるツールとしても良く、より柔らかい雰囲気防災を学べる場となりました。

また、アンケートの結果としても、8割を超える方から良い結果をいただき、今後も楽しく防災を学べるコンテンツとしてメタバースの活用可能性を感じました。

今後も日本工営様をはじめとした企業と連携しながら、防災イベントやその他のイベントでの活用に向けて取組を進めてまいります。

### ●クラスター株式会社 加藤大哉様

今回の「3.11 防災を楽しく学ぼう in メタバース」は、メタバースの特性を活かした防災教育の新たな可能性を示すイベントでした。物理的な制約を超えて豊田市外からも多くの参加者が集まり、幅広い層に体験していただいたことは大きな成果です。特に印象的だったのは、豊田市職員から「普段、Zoom等のオンラインセミナーだとコメントがあまり集まらないのに対して、メタバースを活用したら数百単位でのコメントが集まった」という声をいただいたことです。アバターによる、匿名性と親しみやすさが、参加者の皆様が発言しやすい環境を醸成しました。これにより、活発な意見交換とインタラクティブな体験が促進されたことを実感しております。

クロスロードゲームにおけるチャット機能を用いた意見交換では、参加者の皆様によるリアルタイムのコミュニケーションが活発に行われ、メタバース空間ならではの双方向性の価値が実証されたと考えます。今後は災害体験など、より没入感のある防災教育において、メタバースの強みを最大限に活かした社会実装を推進してまいります。

## 参考文献

メタバースプラットフォーム Cluster：メタバースとよた はじまりの広場 [\(リンク\)](#) / 豊田市メタバース将来ビジョン [\(リンク\)](#) / 豊田市 3D 洪水ハザード情報 [\(リンク\)](#)

CNCP は、  
あなたが参加し、  
楽しく議論し、  
活動する場です。

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人  
シビルNPO  
連携プラット  
フォーム

●登録事務所  
〒110-0004  
東京都台東区下谷  
1丁目11番15号  
ソレイユ入谷

事務局長 田中 努：  
[cncp.office@gmail.com](mailto:cncp.office@gmail.com)  
ホームページ URL：  
<https://npo-cnnp.org/>



## ▼事務局通信

### ■7月の実績

#### ●第135回経営会議

開催日・場所：7月8日（火）Zoom 会議

議題：R6 年度事業報告案／R7 年度事業計画案／サロンの計画

### ■8月の予定

#### ●第136回経営会議

開催日・場所：8月13日（水）Zoom 会議

議題：R6 年度事業報告／R7 年度事業計画／サロンの計画

#### ●令和6年度監事監査

開催日・場所：8月20日（水）メトロ設計（株）

議題：R6 年度事業報告・決算報告／R7 年度事業計画

#### ●令和7年度第1回理事会

開催日・場所：8月26日（火）Zoom 会議

議題：R6 年度事業報告・決算報告／R7 年度事業計画

### ■現在の会員と仲間の数

●会員：賛助会員 30／法人正会員 8／個人正会員 22／合計 60

●仲間：サポーター95／フレンズ 141／土木と市民社会をつなぐフォーラム 15／インフラパートナー18／合計 269

●CNCP の活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただいています（50 音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイアート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シンワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛島建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサルタンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田建設工業（以上 30 社）



土木と市民社会を  
つなぐフォーラム



インフラパートナー  
JSCE 土木学会